

特別支援学級の授業づくりのポイントとは…

授業づくりは、R→P→D→C→Aのサイクルで行います。

特別支援学級の授業づくりでは**R(リサーチ)**がポイントです。

その2 授業づくりのポイント



R
リサーチ

子どもの姿を環境とセットでとらえる！

子どもの得意なことや苦手なことなど、個人についての情報を得ることはもちろんですが…

「全校集会がある時に、事前に言葉で予定を伝えたら、落ち着いて参加していた。」「避難訓練のことを事前に伝えていなかったら、避難せずにその場で30分間大泣きだった。」「実験で使う顕微鏡を見せて授業に誘ったら、スムーズに理科室に移動した。」など、

「〇〇を整えたら(整わなかったら)、子どもの状態は～だった。」というように、**子どもの姿を環境と結びつけて具体的にリサーチしましょう。**これらのリサーチは子ども理解を深めたり、授業を考える手がかりにつながったりします。

C
チェック：評価

A
アクション：改善

子どもは発信している！

なぜ上手くいったのか、なぜ上手くいかなかったのかについて、子どもの姿と環境を結びつけながら振り返りましょう。



上記のような R→P→D→C→Aサイクルを繰り返しながら、**子どもの姿を環境とセットで R(リサーチ)し、子どもの情報を増やして貯めていきましょう！この〆R(リサーチ)貯金〆をしていくことが、支援の手がかりを増やしていくことになります。**

子どもの自立と社会参加に向かって〆R(リサーチ)貯金〆を増やしていきましょう！

では、授業づくりの工夫について自閉症・情緒障がい特別支援学級の取組を例にして考えてみましょう。

その3

その4 教師の役割は…



やってみよう！
言うまでもありませんが…子どもたちは一人一人違います。こうすれば、必ずうまくいくという方法はありません。子どもとかかわりながら試行錯誤していく中で、〆R貯金〆を増やしていけば、何か手がかりが見つかるはず…できることから、やってみましょう。

つながろう！
でも、一人でがんばりすぎないことが大切！特別支援学級の子どもも全校体制で支援していくのは当たり前。まずは校内で相談してみましょう。さらに困ったときには、相談機関を利用しましょう。

編集・発行／島根県教育センター教育相談スタッフ特別支援教育セクション (2014年3月発行)
〒690-0873 島根県松江市内中原町255-1 TEL (0852) 22-5870 FAX (0852) 22-6761

このリーフレットは、島根県教育センターHPに掲載しています。島根県教育センターHP→研究紀要/研修報告書→平成25年度研究紀要・研修報告書→「やってみよう！特別支援学級の授業づくり」リーフレット」

あなただったら () にどんな言葉を入れますか？
その1 特別支援学級の指導では () が大切です。
その2 特別支援学級の授業づくりに必要不可欠なことは () です。
その3 障がいの特性に応じた授業づくりで大切なことは () です。
その4 子どもたちのよりよい育ちのために教師としてできることは () です。

特別支援学級の子どもたちに関わるみなさん、特別支援学級の指導・支援について一緒に考えてみませんか。



特別支援学級の授業づくり

特別支援学級で学ぶ意味とは…

その1 特別支援学級とは

特別支援学級って、「個別に丁寧に」**“勉強”**を教えてくれるんだよね。

そうそう。“子どものペースに合わせて”指導してもらえれば、“勉強”もできるようになるよね。

“個別に丁寧に”“子どものペースに合わせて”とはどういう意味なのでしょう…。



特別支援学級では、障がいの種別ごとに少人数で、障がいのある子ども一人一人に応じた教育を行います。

“個別に丁寧に” “子どものペースに合わせて” ということは**障がいの特性に応じたきめ細かな指導・支援**をすることなのです。

通常の学級と同じ学習内容を同じやり方で個別に学習することではありません。

そして特別支援学級では“勉強”だけでなく**社会性**も、より丁寧に育んでいくことが必要です。

障がいのある子ども一人一人が力を発揮できるように**学ぶ環境を整えていくこと**が大切です！

- 島根県には以下のような障がいの種別の特別支援学級があります。
- ・弱視
 - ・難聴
 - ・知的障がい
 - ・肢体不自由
 - ・病弱・身体虚弱
 - ・自閉症・情緒障がい

例えば

特別の教育課程

自立活動を取り入れる。

知的障がいのある児童生徒については**日常生活の指導**
生活単元学習
遊びの指導
作業学習 など
指導形態を工夫することができます。

詳しくは「特別支援教育ハンドブック」(島根県教育委員会) P73～参照

特別支援学級の魅力

～先輩教師の言葉から～



- 子ども一人一人の好きなことや得意なことを授業に生かしていきやすいから、子どもの笑顔を想像して楽しんで授業を考えられる。
- 子どもとじっくりかかわることで、その成長を本人や保護者と一緒に喜びあえることが多い。
- 自分を必要としてくれる子どもや保護者がいると感じることができ、やりがいを持って取り組める。
- 子どもの行動についてなぜそうするのかを考え、謎が解けたとき、子どもと分かりあえた感じがしてなんだかうれしい。

次は、特別支援学級の授業づくりについて考えてみましょう。

その2

授業づくりの工夫

下の図は、研究協力校での算数科の授業実践をとおして考えた「授業づくりで大切にしたいこと」のイメージ図です。
この図では、授業づくりの基盤と障がいの特性に応じた授業づくりの工夫を紹介しています。
あなたなら目の前の子どもの姿から、どのような工夫を考えますか？

子ども理解

一人一人の自立と社会参加に向けて

自尊感情(自己肯定感・自己有用感)を育む

人を意識したりやりとりしたりできる場

〈自立活動〉
人間関係の形成
コミュニケーション

できる・わかる手立て

〈自立活動〉
環境の把握
心理的な安定
人間関係の形成

生活とつなげて

〈自立活動〉
環境の把握

共感

子どもとの関係づくり

〈自立活動〉
人間関係の形成

子どもとの関係を作っていくことで教師が信頼できる存在となれば、子どもに安心感や意欲を育むことにつながります。

これらの工夫は、自立活動の指導内容と深くかかわっています。特別支援学級の授業づくりには自立活動の視点を取り入れることが大切です。
これらの授業づくりの工夫と自立活動との関連についての詳細は島根県教育センターHPに掲載しています。(※1)

★グラフをかくことの中で子どもの実態から*座標軸上に点をとること、にねらいを絞る。



★心拍数の測り方について写真を提示しながら説明。



○ねらいの焦点化

- 実際に体験することをおして確認できる言葉のイメージにつなげることができる教材・教具
- 分かる言葉で具体的に発問・指示
 - 言葉に合わせ視覚的な物の提示
- 学習したことが見て確認できる板書
- 体験したことを言葉で丁寧に意味づけ

- 算数で学習したことが生活の中で使われている場を題材として設定

- 算数の基礎的な概念(分数とは何か、面積とは何か等)を題材として繰り返し設定

- 学習したことが生活の中で使われている場を紹介

ここに写真で紹介している「折れ線グラフであらわそう」(数量関係)の授業を始め、6つの授業実践について島根県教育センターHPに掲載しています。(※2)
紹介している他の授業の題材名は以下のとおりです。

- ★「いろいろな形であらわしてみよう」(図形)(量と測定)
- ★「分数1/8ゲームをしよう」(数と計算)
- ★「正方形を切り取ってさいころの形を作ろう」(数と計算)
- ★「比べてみよう! どちらがお得?」(量と測定)(数と計算)
- ★「クイズグランプリ! モノの位置を表してみんなで高得点!!」(図形)

(※1) 島根県教育センターHP→研究紀要/研修報告書→平成25年度研究紀要・研修報告書→「特別支援学級の指導の充実に向けて～実態調査と授業づくりの提案～」
(※2) 島根県教育センターHP→研究紀要/研修報告書→平成25年度研究紀要・研修報告書→「小学校自閉症・情緒障がい特別支援学級算数科授業実践ファイル～子どもから学ぶ授業づくりのヒント～」

○一緒に活動できる場の設定

○好きなことや興味のある活動

- 児童の言葉や気持ちを分かりやすく代弁
- かかわりを促す言葉かけ

- 学ぶ先が見て分かるように導入で予定を提示

- 導入で興味・関心を引きそうな具体物を提示

- 座席の配置や掲示物への配慮、整理整頓等、刺激量の調整

- 場の構造化

- 行動の奥にある思いを受け止めながらのかかわり

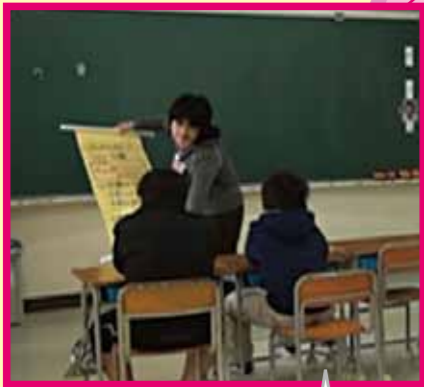
- よかった行動や取り組んでいる姿をその場で具体的に称賛

- 意欲につながる教材・教具

写真は「折れ線グラフであらわそう」(数量関係)の授業実践の様子です。
授業では、サーキット運動をしてから自分の心拍数を測り、その数値の変化を折れ線グラフにしてみました。



★体を動かすことが好きな子どもたちにサーキット運動の場を設定。



★巻き物を使って学習内容や予定を提示。

★自分の心拍数が数字で表される血圧計に興味津々。モチベーションUP!

